



モンゴル語のコピュラ構文の意味の種類

メタデータ	言語: jpn 出版者: 室蘭工業大学 公開日: 2007-05-16 キーワード (Ja): キーワード (En): copula, temporary state, permanent state, assertion, specification, prominence 作成者: 橋本, 邦彦 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10258/69

モンゴル語のコピュラ構文の意味の種類

その他（別言語等） のタイトル	The Semantic Typology of Copula Sentences in Mongolian
著者	橋本 邦彦
雑誌名	室蘭工業大学紀要
巻	54
ページ	91-100
発行年	2004-11
URL	http://hdl.handle.net/10258/69

モンゴル語のコピュラ構文の意味の類型

橋本 邦彦*¹

The Semantic Typology of Copula Sentences in Mongolian

Kunihiko HASHIMOTO

(原稿受付日 平成 16 年 5 月 17 日 論文受理日 平成 16 年 8 月 31 日)

Abstract

The purpose of this article is to investigate the typology of copula sentences in Mongolian from the point of view of correspondences between their forms and meanings. The copula sentences have at least eleven types in form. Their functions, which include attributive predication and identificational predication, are distributed throughout all the forms. On the other hand, the meanings should correspond to the different forms one by one. We will explicate the fact that the combinations of subject NP's and predicate NP's play an important role.

Keywords: Copula, Temporary State, Permanent State, Assertion, Specification, Prominence

1 はじめに

コピュラ構文は述語の位置にくる文法要素に応じて、次の 3 つのタイプに分類される。

- (1) a. 名詞句: John is a boy.
- b. 形容詞句: John is brisk.
- c. 副詞句/前置詞句: John is upstairs/in the kitchen.

(1a)は帰属的叙述機能をもち、主語 John が BOY の集合のメンバーであることを示す。(1b)は特性叙

述で、主語の特定の性質を指定している。(1c)は存在叙述で、主語が特定の場所に存在することを述べている。

この 3 つのタイプのコピュラ構文は多くの言語で観察されるが⁽¹⁾、本稿では(1a)の名詞型のコピュラ構文にのみ考察の対象を限定する。

モンゴル語のコピュラ構文の機能には、次のようなものがある。

- (2) a. 帰属的叙述
 - ①一般帰属
 - ②特定帰属
 - ③特性帰属
- b. 同定的叙述

*¹ 共通講座

①等価同定

②焦点化同定

(2a)①、②は、主語 NP の指示対象が述語 NP の表示する集合に所属することを叙述する。

(3) a. [Ene xün] [zoxioolch].

この人 芸術家

「この人は芸術家です。」

b. [Bi] [negdügeer angi-ijn suragch].

私は 第一の クラス-<属> 生徒

「私は一組の生徒です。」 U:22⁽²⁾

(3a)は一般帰属の文で、「この人」は「芸術家」の集合のメンバーであることを叙述している。

(3b)は特定帰属の例で、「私」は「一組」という特定化されたクラスの「生徒」という集合のメンバーである。一方、(2a)③は(1b)の形容詞述語型のコピュラ構文に近く、(4)で見ると、述語 NP は集合を表示するのではなく、特定の性格や性質を備えた人や物を表す。この人や物が特定のラベルとなって主語 NP の指示対象に貼り付けられるのである。

(4) [Minij aav] [xeterxij changaa xün].

私の 父親 極めて厳格な 人

「私の父親は極めて厳格な人です。」 M:220

(4)では「極めて厳格な人」という特定のラベルが「私の父親」に貼り付けられる。

(5) a. [Ter ulaan deel-tej xün]

その 赤い 外套-<共同> 人

[manaj surguuli-ijn emch].

私たちの 学校-<属> 医者

「その赤い外套の人は私たちの校医です。」

b. [Tend suu-zh baj-

そこに すわる-<未完了接続> いる-

g-aa xün] [minij ax].

<挿入>-<未完了> 人 私の 兄

「そこにすわっている人は私の兄です。」

(5a)は(2b)①の等価同定の文で、主語 NP の指示対象と述語 NP の指示対象が同一であることを叙述する。(5b)は(2b)②の焦点化同定の例で、英語の分裂文と同様に、述語の位置に焦点要素が現れる。

5つの機能は形式横断的であり、モンゴル語の複数の形式のコピュラ構文すべてに渡って観察できる。

(6) a. [Ene] [gutal baj-na].

これは ブーツ <コピュラ>-<現在>

「これはブーツです。」

(6) b. [Ter xün] [zoxioolch yum].

その人 作家 <コピュラ>

「その人は作家です。」

(7) a. [Bi] [Bat baj-na].

私は バト <コピュラ>-<現在>

「私はバトです。」

b. [Mongol Uls-iyn nijslel] [Ulaanbaatar

モンゴル 国-<属> 首都 ウランバートル

xot yum].

市 <コピュラ>

「モンゴルの首都はウランバートル市です。」

(6)は一般帰属、(7)は等価同定の文であるが、(6a)、(7a)は[NP]-[NP+baj-]の形式、(6b)、(7b)は[NP]-[NP+yum]の形式である。

限られた数の機能が形式横断的に分布するのに比べ、意味は個々の形式と密接に関連しているように思われる。実際、モンゴル語のコピュラ構文を主語と述語の異なる形の組み合わせから、少なくとも11の型に分類することができるのである。従来の研究ではほとんど形式と意味との詳細な対応分析は行われてこなかった⁽³⁾。そこでこの論文では、コピュラ構文の11の型に対応してどのような意味の違いがあるのか、また、相互の意味の間にどのような関連があるのかを考察する。

2 コピュラ構文の形式と意味

コピュラ構文の意味の違いは形式の違いと対応している。基本形の[NP]-[NP]と[NP]-[NP+baj-]を中心に、主だった形式とそれに対応する意味とを順次見ていく。

2.1 [NP]-[NP]と[NP]-[NP+baj-]

[NP]-[NP]型の文は、一般に、<持続的状态>の意味をもつ。

(8) a. [Tednij aav] [bagsh].

彼らの 父親 教師

「彼らの父親は教師です。」

b. [Manaj eezh] [altan gar-taj xün].

私たちの 母親 黄金の手-<共同> 人

「私たちの母親は金の手を持った人です。

=手先が器用です。」 M:61

c. [Dorzh] [manaj eezh-ijn ojr törl-

ドルジ 私たちの 母親-<属> 親類-

ijn xün].

<属> 人

「ドルジは母方の親類です。」 M:212

- d. [Ene tom tsonx-toj tsagaan
この 大きい 窓-<共同> 白い
bajshin] [manaj surguuli-ijn oyuuin-ijn
建物 私たちの 学校-<属> 学生-<属>
bajr].
アパート
「この大きな窓のある建物は私の学校の
学生寮です。」

(8a)は職業、(8b)は素質、(8c)は親族関係、(8d)は等価関係で、各々、時間軸の上で安定した状態にある。

[NP]-[NP+baj-]型中のコピュラ動詞 baj-は、しばしば、テンス/アスペクト接尾辞との関連で言及される (Sanzheyev (1973: 112), Sanders and Bat-Ireedüj (1999: 18)).

- (9) a. [Dorzh] [bagsh baj-san].
ドルジ 教師 <コピュラ>-<完了>
「ドルジは教師でした。」
b. [Dorzh] [bagsh baj-na].
ドルジ 教師 コピュラ-<現在>
「ドルジは教師です。」
c. [Dorzh] [bagsh].
ドルジ 教師
「ドルジは教師です。」

確かに、テンス/アスペクトにのみ相違点をおく最小対立では、baj-に付く接尾辞が、(9a)では過去の、(9b)では現在の事態を、それぞれ対比的に記述している。しかしながら、現在の事態の中では、コピュラ動詞のある(9b)とそれのない(9c)の違いを説明することができない。

現在時で baj-を必要とするのは、<一時的状態>を表す場合である。

- (10) a. [Önödör] [xamgijn xüjten ödör baj-na].
今日 最も 寒い 日 <コピュラ>-
<現在>
「今日は一番寒い日です。」
b. A: Xoolniy tses-ee üzüül-ne
メニュー-<再帰> 見せる-<現在>
üü?
<疑問>
「メニューを見せて頂けますか。」
B: Maj, [xoolniy tses] [ene baj-na].
どうぞ メニュー これ <コピュラ>-
<現在>
「どうぞ、メニューはこれです。」 S:22

(10a)は今日一日の気温について述べている。(10b)の物を提示する際に発する文は、発話時の状況と密接に関連している。

[NP]-[NP]型の文が、一見、<一時的状態>を意味するような事例が存在する。

- (11) a. A: Önödör xeden be?
今日 いくつの <疑問>
「今日は何日ですか。」
B: [Önödör] [arvan negdügeer sar-iyin
今日 10+ 第一の 月-<属>
arvan xoyor].
10+ 2
「今日は11月12日です。」 HA:28
b. [Tishee yav-san xün][minij aav].
向こうへ 行く-<完了> 人 私の 父親
「向こうへ行った人は、私の父親です。」

(11a)は日付を表す文で、「11月12日」は一日限りの状態のように思われる。けれども、日付は一年の定まったサイクルの中に位置づけられるのだから、実際は循環的な持続的状态と言える。(11b)は、発話時に移動していく人を見ながらその人の正体を同定する文である。発話時の文脈と直接に関連している点で、<一時的状態>を表しているように見える。しかしながら、「向こうへ行く」動作の人物と「私の父」との間には親族関係が成立するのだから、やはり<持続的状态>である。

以上のことから、二つのコピュラ構文の形式と意味との対応をまとめると、次のようになる。

- (12) a. [NP]-[NP]型：持続的状态表示
b. [NP]-[NP+baj-]型：一時的状態表示

2. 2 [NP+bol]-[NP], [NP+bol]-[NP+baj-], [NP+bol]-[NP+yum]

bolはトピック標示要素であり、主語NPをトピックとして取り立てる働きをもつ。この働きは、典型的には、既知事項に適用される。

- (13) a. A: Shön-ijn delgüür-ee?
夜-<属> 店-<再帰所有>
Yuu ve?
何 <疑問>
「夜の店ですって。(それは)何？」
B: [Shön-ijn delgüür ge-deg
夜-<属> 店 言う-<習慣>
bol] [xorin dörvön tsag-ijn
<トピック>20+ 4+ 時間-<属>

azhillagaataj xüns-nij delgüür].

営業している 食料<属> 店

「夜の店というのは24時間営業している食料品店です。」SB:160

b. [Ter bol] [Süxbaatar-ijn]

それは<トピック> スーパートル<属>

xöshöö baj-na].

銅像 <コンピュータ>-<現在>

「それはスーパートルの銅像です。」

(13a)Bの主語NPは、先行文脈(13a)Aの「夜の店」を引用標識ge-degを用いてそのままの形で引用している。(13b)では主語NPは指示代名詞で、発話場面内の対象を指示している。いずれの場合も、bolに導かれるNPは、話し手と聞き手双方の了解事項である。

bolは既知事項にのみ限定されるわけではない。少なくとも、聞き手にとって新情報と解釈される場合にも用いられる。

(14) [Medleg bol] [deed-ijn bayalag].

知識 <トピック> 高い<属> 富

「知識は最高の富です。」M:218

(14)の総称文では、bolに取り立てられた主語NPは、聞き手にとって初めて提示されるわけだから、未知事項である。残念ながら、未知事項のトピックで述語にbaj-のくるデータはない。

述語にNPのみが現れる場合とコンピュータ動詞baj-が存在する場合とでは、意味の違いがあるのだろうか。

(15) a. [Ene bol] [zochid buudal].

これは<トピック> ホテル

「これはホテルです。」

b. [Ene bol] [zochid buudal]

これは<トピック> ホテル

baj-na].

<コンピュータ>-<現在>

「これはホテルです。」M:194

Kullmann and Tserenpil (1996: 194)によると、(15b)のようにbaj-が用いられる場合、「語られている事実が今判明したような含み」が生じる。言い換えると、発話時に直結した状態の記述であり、コンピュータ動詞のもつ<一時的状態>の時間幅を最大限に縮めたものとみなすことが可能である。

baj-は発話時の直示性と密接に関連し、bolで取り立てた指示対象を発話の時点に結びつける。

(16) Za, bid Süxbaatar-ijn

さあ 私たちは スーパートル<属>

talbaj-d xür-eed ir-lee.

広場<与位> 着く<-<完了接続> 来る<-<過去>

[Ter bol] [Süxbaatar-ijn]

それは<トピック> スーパートル<属>

xöshöö baj-na].

銅像 <コンピュータ>-<現在>

「さあ、私たちはスーパートル広場に着きました。それがスーパートルの銅像です。」

HA:91

(16)は話し手と聞き手を取り巻く状況で、二人が眼前に見ている銅像について、話し手がその正体を同定している。

では、[NP+bol-]-[NP+yum]型のコンピュータ構文の意味はどうだろうか。yumは述語の位置でコンピュータとして機能するのだが、本来は「真であるような事実の指示」(Street (1963: 159))、「話者の確信」(Hangin (1992: 87))を表すと考えられている。言い換えると、<断定>の意味ということになる。

yumは、テンス/アスペクトの付いた一般動詞や形容詞の後に現れる。

(17) a. Bi üünijg arvan tögrög-öör

私は これを 10+ トウグルク<-<具>

av-san yum.

買う<-<完了> <断定>

「私はこれを10トウグルクで買いました。」

b. Xünd yum!

重い<断定>

「重いな。」HA:87

(17a)は話者自身の行為についての言及であるから、当然、確信して断定できる。(17b)は、何かを持ち上げようとして話者が実際に経験した事態の記述である。

bolの<取り立て>とコンピュータとして用いられたときのyumの<確信的断定>とは、意味的に響き合う。

(18) a. [Ter bol] [suragch yum].

彼は<トピック> 学生 <コンピュータ>

「彼は学生です。」

b. [Ter] [suragch bish].

彼は 学生 <否定>

「彼は学生ではありません。」

(18b)は(18a)の否定形であるが、yumが対応する否定形コンピュータのbishに置き換わる以外に、主語の位置にbolが現れなくなる。これは、否定文が対比的に用いられない限り、主語の取立てによるト

ピックの提示の必要性を消失するからである。

- (19) a. [Delxij-n uran zurg-ijn xamgijn
世界-<属> 美術-<属> 最も
tom muzej bol]
大きい 博物館 <トピック>
[Sanktpetrburg xot-iy
サンクトペテルブルグ 市-<属>
<<Ermitazh>> yum].
エルミタージュ <コピュラ>
「世界で最大の美術館はサンクトペテル
ブルグ市のエルミタージュです。」
ÖS: 1999.10.21.
- b. [Golomt bank-niy tuxaj-d
ゴロムト 銀行-<属> について-<与位>
bol] [Yapon-iy arilzhaaniy
<トピック> 日本-<属> 商業の
bank-uud-taj xaritsuul-a-xad
銀行-<複>-<共同> 比較する-<挿入>-
zhizhig bank yum].
<場合> 小さい 銀行 <コピュラ>
「ゴロムト銀行については、日本の商業
銀行と比較した場合、小さな銀行です。」
ÖS: 2000.8.29.

(19a)は「世界最大の美術館」を話題化した後で、それに当てはまる値を断定している。(19b)は bol のトピックの取立てが鮮明に映る文で、話題化の機能を担う tuxaj-d をさらに取り立てて、述語で断定している。

以上から、主語の位置に bol の現れるコピュラ構文の意味をまとめると、次のようになる。

- (20) a. [NP+bol]-[NP]: 持続的状態でのトピックの取立てとそれについての内容のコメント表示。
b. [NP+bol]-[NP+baj-]: 発話時の瞬間的認知を含む一時的状態でのトピックの取立てとそれについての内容のコメント表示。
c. [NP+bol]-[NP+yum]: 持続的状態でのトピックの取立てとそれについての内容の断定表示。

2. 3 [NP]-[NP+mön], [NP+bol]-[NP+mön]

mön も yum と同様にコピュラとして用いられる。元来、mön は多義的な語で、形容詞として「まさにその、同一の」(21a)、「正しい、真実の」(21b)、間投詞として「はい、その通り」(21c)の意味がある。

- (21) a. mön xün 「まさにその人」
b. mön chanar 「本質」
c. A: Ene mön üü? 「これですか。」
B: Mön. 「はい、そうです。」
コピュラの mön は(21a-c)の意味を継承している。Hangin et al.(1986: 322a)はそれに留意しながら、「コピュラとしての mön は、名詞を強調したり特化するのに用いられる」と解説している。

- (22) a. [Baatar] [azhilchin mön].
バートル 労働者 <コピュラ>
「バートルは労働者です。」
b. [Bat mön] [azhilchin].
バト 同様に 労働者
「バトも労働者です。」
Hangin et al. (1986: 322a)

(22a)では述語 NP の「労働者」に卓立性を付与しているのに対し、(22b)では主語 NP の「バト」に卓立性が移行している。

[NP]-[NP+mön]型の文の意味は、トピックとそれについての卓立性の与えられたコメントの断定であると捉えることができる。yum の機能と区別するために<卓立的断定>と呼ぶことにしよう。

- (23) a. [Üxer] [xamgijn sajn chanar-iy
牛 最も よい質-<属>
max-taj mal mön].
肉-<共同> 家畜 <コピュラ>
「牛は最も良質な肉を備えた家畜です。」
MX:85

- b. [D. Natsagdorzh l] [mongol-iy
ナツァグドルジこそ モンゴル-<属>
shine uye-ijn uran zoxiool-iyg
新しい 時代-<属> 文学-<対>
ündeslegch mön].
創設者 <コピュラ>
「D. ナツァグドルジこそモンゴルの新時代の文学を確立した人です。」

(23a)では「牛」についてその肉の質のよさに卓立性を与えた上で断定している。(23b)では強意の後接語 l と mön が呼応して、主語 NP について述語は卓立的なコメントを下している。

mön が卓立的な断定の意味を有する証拠として、多くの疑問文に現れる事実を指摘することができる。

- (24) A: [Ene] [Sanzhaa guaj-n-x
これは サンジャー さん-<属>-<所有>

mön] üü?
 <コンピュータ> <疑問>
 「こちらはサンジャーさんのお宅ですか。」
 B: Mön, mön, moril-zh
 はい はい おいでになる-<未完了接続>
 or-tsgoo.
 入る-<集合>
 「はい、はい、お入りください。」

mön が疑問化されると、(24A)に見るように、確認の意味が出てくる。この確認に対して肯定で答える場合、(24B)のように mön を反復することで強く断定できるわけである。

[NP+bol]-[NP+mön]型のコンピュータ構文は、取り立てられたトピックについての卓立的断定を表示する。bol により取り立てられるトピックは、既知事項でもよいし、未知事項でもよい。

- (25) a. [Ene bol] [suu-maar ger].
 これは <トピック> 住む-<願望> 天幕
 「これは住みたい天幕です。」 M:152
- b. [Mal azh axuj bol] [Mongol-iyn
 牧畜業 <トピック> モンゴル-<属>
 xödöö azh axuj-n undsen gol
 牧農林業-<属> 基本的な 主要な
 salbar mön].
 分野 <コンピュータ>
 「牧畜業はモンゴルの牧農林業の基本的で
 主要な分野です。」 S:77

(25a)は指示代名詞で既知事項である。一方、(25b)は文章の冒頭の文で、初めて読者に提示されたトピックである。どちらも bol に取り立てられスポットライトを浴びた後に、述語で具体的に断定されている。

bol には強い話題提示機能があるので、mön の指定性をそのまま確定してしまう。そのため、[NP]-[NP+mön]とは異なり、疑問化され難いように思われる。確認の必要性を排除するからである。因みに、手持ちのデータで、[NP]-[NP+mön]-üü? は 18 例中 11 例を数えるが、[NP+bol]-[NP+mön]-üü? は 15 例中ゼロである。また、[NP+bol]-[NP+mön+baj-]のような、一時的状態を示す例も見当たらない。この事実は、bol と mön の間に成立する確定された指定性が持続的状態を意味することを語っているのである。

以上から、[NP]-[NP+mön]と[NP+bol]-[NP+mön]の意味をまとめると、次のようになる。

- (26) a. [NP]-[NP+mön]: 持続的状態でのトピック

の提示とそれについて卓立的に断定されたコメントの表示。

- b. [NP+bol]-[NP+mön]: 持続的状態でのトピックの取立てとそれについて卓立的に断定されたコメントの表示。

2. 4 [NP+PPC]-[NP], [NP+PPC]-[NP+baj-], [NP+PPC]-[NP+yum], そして[NP+PPC]-[NP+mön]

人称所有接語(Personal Possessive Clitic, 以降 PPC と略)は、元来、名詞句に後接して所有関係を表す。

- (27) a. Ax mini tand tum ix
 兄 私の あなたにととも 非常に
 bayar-a-laa.
 感謝する-<挿入>-<過去>
 「私の兄はあなたに大変感謝しています。」
- b. Tsamts chini xar bol-chix-zhee.
 シャツ 君の 黒い なる-<完了>-<過去>
 「君のシャツは黒くなってしまいました。」
- c. Bat ger-t-ee ir-vel
 バト 家-<与位>-<再帰所有> 来る-<条件>
 eezh ni yav-chix-san
 母親 彼の 行く-<完了>-<完了>
 baj-laa.
 <コンピュータ>-<過去>
 「バトが帰宅すると、彼の母親は出かけて
 しまいました。」

主語 NP の構成要素として、(27a)は 1 人称、(27b)は 2 人称、(27c)は 3 人称の所有関係を示している。

PPC がこのような人称性から離れて、主語標示要素として文法化している場合がある。

- (28) a. Oyuutan baj-xd-aa
 学生 <コンピュータ>-<場合>-<再帰所有>
 tüütej-g-ee tanilts-san.
 彼と<挿入>-<再帰所有> 知り合う-<完了>
 [Ter maani] [bagsh baj-laa].
 彼は 私たちの 教師 <コンピュータ>-<過去>
 「学生の時に彼と知り合いました。彼は教師でした。」 ÖS:2000.9.27.
- b. [Minij düü chini] [uxaantaj xün].
 私の 弟 君の 知的な 人
 「私の弟は知的な人です。」 M:372
- c. [Ene ni] [tsagaan budaa]. [Ter ni]
 これは 彼の 米 それは 彼の

[elsen chixer].

グラニュー糖

「これはお米でそれはグラニュー糖です。」

(28a)の1人称複数形 maani、(28b)の2人称 chini、(28c)の3人称 ni には、積極的な所有関係の意味はない⁽⁴⁾。

[NP+PPC]-[NP]型のコピュラ構文は、焦点化文である。

(29) a. [Anagaax uxaaniy deed surguuli-ijn

医科大学-<属>

oyuutn-iy olonxi ni] [emegtejchüüd].

学生<属> 大部分 彼の 女性たち

「医科大学の学生の大部分は女性です。」

b. [Tedexed xuul-ijn salbar-iy

その当時 法律-<属> 学部-<属>

tenxm-ijn erxlegch ni] [Chimed

ホール-<属> 責任者 彼の チメド

bagsh].

先生

「その当時法学部長はチメド先生です。」

ÖS:2001.3.6.

(29a, b)は主語で内容説明的な項を提示した後で、その項に該当する値を特定している。これは、英語の分裂文(cleft sentences)と機能の上で類似している。

(30) [トピック : x] ⇒ [焦点 : x の値]
specification

述語 NP の焦点化は、主語 NP に形動詞句を立てる文で顕著である。(31)は、一種の倒置文であるが、主語で内容を十分記述した後で、述語でそれに該当する項を特定している。

(31) [Mön l gants neg xün üg

当該の 丁度 だけ 一人の 人 言葉

xel-sen ch xurl-iy

言う-<完了> さえ 会議-<属>

uur amisgal-iyg exd-e-zh

雰囲気-<対> 破る-<挿入>-<未完了接続>

chad-aa-güj ni]

できる-<未完了>-<否定> 彼の

[medeezh].

周知のこと

「たった一人の人だけが意見を述べたとしても、会議の雰囲気を乱すことができないということは、周知の事実です。」 ÖS:2001.3.27.

この型の文が持続的状態を表すことは、(32)の対話文から明らかである。

(32) A: Ulaanbaatar xot-iy

ウランバートル市-<属> 中心-<与位>

yamar yamar sonirxoltoj gazar

どんな どんな 面白い 場所

baj-dag ve?

ある-<習慣> <疑問>

「ウランバートル市の中心部にはどんな面白い場所がありますか。」

B: [Xot-iy tux-ijn dursgalt gazr-uud-iy

市-<属> 歴史-<属>記念の 場所-<複>-<属>

neg ni] [Süxbaatar-ijn talbaj].

1つ 彼の スフバートル-<属> 広場

「市の歴史的な記念の場所の一つは、スフバートル広場です。」 SB:53

(32A)の動詞 baj-に付加している習慣形接尾辞は、持続的・反復的な事態のアスペクトを指示する。

[NP+PPC]-[NP+baj-]型の文も、(29)、(31)、(32)と並行した例を持つが、意味に違いがある。

(33) a. [Ene stügee-n-d baj-g-aa

この 戸棚-n-<与位> ある-<挿入>-

nom-iy olonxi ni]

<未完了> 本-<属> 大部分 彼の

[uran zoxiool-iy nom baj-na].

文学-<属> 本 <コピュラ>-<現在>

「この書棚にある本の大部分は、文学書です。」

b. [Govi nutg-ijn zhuulchid ix

ゴビ 地方-<属> 旅行者たち しばしば

och-dog gazr-iy neg ni]

行く-<習慣> 場所-<属> 1つ 彼の

[Gurvan sajxan uul-s-iy

ゴルバン サイハン 山-<複>-<属>

Yoliyn am darxan gazar

ヨリーン アム 特別保護の 土地

baj-na].

<コピュラ>-<現在>

「ゴビ地方の旅行者たちがしばしば訪れる場所の一つは、ゴルバン・サイハン山地のヨリーン・アム保護区です。」

SB:112

(33a)は書棚を前にして語っている文である。一方、(33b)は旅行ガイドブックの解説文で、読む行為と解説の提示とが同時的である。どちらの文も、発話時と直結した文と言える。このことは、倒置型の文でも観察できる。

(34) [Ene olon max-n-aas av-maar
この たくさんの 肉-n-<奪> 買う-<願望>
ni] [ene baj-na].
彼の これ <コピュラ>-<現在>
「このたくさんの肉の中から買いたいのは、
これです。」 M:152

(34)は目の前に陳列された肉を話し手が指し示しながら発話する直示的なコピュラ構文である。

(35) A: Tedentej baj-g-aa
彼らと一緒にの いる-<挿入>-<未完了>
ter zaluu avgaj xen be?
あの 若い 女性 誰 <疑問>
「彼らと一緒にいるあの若い女性は誰で
すか。」

B: [Ter chini] [nertej duuch Dulmaa
それは 君の 有名な 歌手 ドルマー
baj-na].
<コピュラ>-<現在>
「それは有名な歌手のドルマーです。」

HA:129

(35)は眼前の女性についての質問である。現在継続している状態を示す存在動詞 baj-の未完了形、及び指示代名詞 ter が、その事実を支持してくれる。(35B)は、このような発話時に直結した同定文なのである。

[NP+PCC]-[NP+yum]型のコピュラ構文の意味はどうだろうか。

(36) a. [Buuz ge-deg ni] [max-taj
ボーズ 言う-<習慣> 彼の 肉-<共同>
xool yum].
料理 <コピュラ>
「ボーズというのは肉料理です。」 M:372

b. Tegeed ch [ex orn-iy maani
それだから さえ 母 国-<属> 私たちの
yal-dag gar ni] [zaluuchuud
勝つ-<習慣> 腕 彼の 若者たち
yum].

<コピュラ>

「それだからこそ、私たちの母国が勝利する腕となるのは、若者たちなのです。」

MX:53

人称所有接語があるトピックとして採り上げる働きをしていることは、(36a)の引用の ge-deg から明らかである。また、yum に断定の力のあることは、(36b)の前提強調句 tegeed ch との呼応関係から窺うことが可能である。

この型の文が焦点化の意味構造を備えていることは、(37)の倒置文から見てとれる。

(37) Tegeed [vagon-d yav-zh
それから ワゴン車-<与位> 行く-<完了接続>
baj-g-aad
gurav daxi aya-aa
3つの中 メロディ-<再帰所有>
zoxioo-son ni] [odoo ene aya
作曲する-<完了> 彼の 今の この メロディ
ni yum].
彼の <コピュラ>
「それからワゴン車で出かけていて、3つの
(歌詞の) 中で曲をつけたのが、今のこの曲
なのです。」 ÖS:1999.11.18.

(37)は主語で前もって内容を提示してから、それについて断定的なコメントを下している。

[NP+PPC]-[NP+mön]型のコピュラ構文の例として、(38)を挙げる。

(38) [Ügen togloom ni] tovchxon xel-e-xed
言葉+ 遊び 彼の 短く 言う-<挿入>
[togloom naadam tödijgüj,
-<場合> 遊び だけではなく
mongol ardiyn aman zoxiool-iy
モンゴル 民間の 口承の 文学-<属>
biyee daasan negen törör züjl mön]
独立した 1つの ジャンル <コピュラ>
bilee.
<コピュラ>

「言葉遊びは、簡単に言うと、遊びというだけではなく、モンゴル民間口承文芸の独立した一つのジャンルなのです。」 S:97

(38)は、主語 NP「言葉遊び」をトピックとして特定した後で、それについて述語で卓立的に断定している。

mön が卓立的断定の意味を有することは、その疑問形が確認となる(39)の文から理解できる。

(39) [Tsogtbaatar ni] [ene chiglel-ijn
ツォグトバートル 彼の この 方面-<属>
mergezhil-ijn xün mön] üü?
専門-<属> 人 <コピュラ> <疑問>

「ツォグトバートルはこの方面の専門家なのですか。」 ÖS:2001.3.27.

(39)は「ツォグトバートル」を特定して、「専門家」かどうかを確認している。

卓立的断定文は、焦点化の文で、その特性をい

かんなく發揮できる。

- (40) Bajlgaan-d ter xeden udaa
 戦闘-<与位> 彼は いくつかの 回数
 sharxd-a-zh bilee.
 負傷する-<挿入>-<未完了接続> <コピュラ>
 [Manaj Mongol-iyn zhalgal-iyn
 私たちの モンゴル-<属> 幸福-<属>
 tölöö bajld-a-zh
 ために 戦う-<挿入>-<未完了接続>
 yav-san neg sajn nōxör
 行く-<完了> 一人 すばらしい 友人
 minij] [ter mön].
 私の 彼は <コピュラ>

「戦闘で彼は数回負傷したのです。私たちのモンゴルの幸福のために戦いに出て行った一人のすばらしい友が、彼なのです。」MX:24

(40)の先行文で「彼」についての前提情報が提供される。後続のコピュラ構文の主語で内容説明的な情報が提示され、その値として「彼」が特定されている。この特定化の伏線として前提情報は機能しているのである。

以上から、4つのコピュラ構文の意味をまとめると、次のようになる。

- (41) a. [NP+PPC]-[NP]: 持続的状態でのトピックの特定化提示とそれについてのコメント表示。
 b. [NP+PPC]-[NP+baj-]: 発話時と直結した一時的状態でのトピック特定化提示とそれについての断定的コメント表示。
 c. [NP+PPC]-[NP+yum]: 持続的状態でのトピック特定化提示とそれについての断定的コメント表示。
 d. [NP+PPC]-[NP+mön]: 持続的状態でのトピック特定化提示とそれについての卓立断定的コメント表示。

3. 結論

本稿では、主語 NP の形式と述語 NP の形式の組み合わせから、1 1 個のタイプのコピュラ構文を考察してきた。この内、主語 NP の形式に関しては、次のような含意関係が成立する。

(42) 主語 NP のトピック化の含意関係：

ϕ \supset bol \supset mön \supset PPC
 <無標> <取立て> <卓立> <特定化>

左端の ϕ は無標の形式で、任意の対象をトピック

化し主語として提示する。bol の取立てはトピック化提示を含意し、mön は取立てを含意し、PPC は卓立を含意する。言い換えると、右方の項目はそれより左方の項目の意味をすべて含意する。

述語 NP の形式に関しては、次のような含意関係が成立する。

(43) 述語 NP の叙述化の含意関係：

ϕ \supset yum \supset mön
 <無標> <断定> <卓立的断定>

左端は ϕ の無標の形式で、一般・特性帰属や同定などの叙述を表す。yum はこの叙述を含意し、mön は断定を含意する。言い換えると、右方の項目はそれより左方の項目の意味をすべて含意する。

コピュラ構文は、(42)と(43)の各形式の組み合わせで構成されるわけだが、その基本形は、次の通りである。

(44) コピュラ構文の基本形：

- a. [NP+ ϕ]-[NP+ ϕ]: 恒常性、反復性を含む持続的状態の叙述。
 b. [NP+ ϕ]-[NP+baj-]: 発話時と直結した言語行為性を含む一時的状態の叙述。

1 1 個のタイプのコピュラ構文の意味は、実は、(44a)と(44b)を基にして、(42)と(43)の含意関係を担う要素の意味を加味した上で成立するのである。

コピュラ構文の残された問題として、談話表示要素 dee、shüü などと終わる形式、対格形と言述動詞 ge-との組合せの形式、過程動詞 bol-で終わる形式、否定形コピュラ構文等のほかに、形容詞句述語のコピュラ構文を分析しなければならない。これらは、個別言語内の問題としてだけではなく、言語類型的にも興味深い事実を披露してくれるはずである。

謝辞

本稿を改定するに当たって、「紀要」編集委員会の査読委員より貴重なご指摘、並びに意見を頂いた。この場を借りて謝意を表したい。また、論文執筆の時宜にかなった動機付けと励ましを与えてくださった室蘭工業大学の塩谷亨氏にも感謝したい。氏からの問題提起がなければ、コピュラに関する研究に着手することはなかっただろう。なお、誤記、誤りはすべて著者自身に帰属する。

注

- (1) たとえば、Wezer (1996), Stassen (1997), Pustet (2003)を参照のこと。
- (2) HA: Hangin (1992), M: Kullmann and Tserenpil (1996), MX: Bjambasan et al. (1979), ÖS: Ödriin Sonin (Online Newspaper), S: 塩谷茂樹 & プレジャブ (2001), SB: Sanders and Bat-Ireedüi (1999), U: Sharav et al. (1978)
- (3) たとえば、Poppe (1951, 1970), Street (1962), Vietze (1978), Binnick (1979), Hangin (1992), フフバートル (1993), Kullmann and Tserenpil (1996), Kasiyanenko (2002)を参照のこと。
- (4) ただし、人称所有接語の意味の核である<指示性>は保持している。この指示性により、主語を特定化できるわけである。

参照文献

- Binnick, Robert I. (1979) *Modern Mongolian: A Transformational Syntax*. University of Toronto Press.
- Bjambasan, P. et al. (1979) *Mongol Xel 5*. Ulaanbaatar.
- Hangin, John G. (1992) *Basic Course in Mongolian*. Indiana University Press.
- Hangin, John G., et al. (1986) *A Modern Mongolian-English Dictionary*. Indiana University Press.
- フフバートル. (1993) *モンゴル語基礎文法*. たおフォーラム.
- Kasiyanenko, Z. K. (2002) *Sovremennij Mongoliskij Yaziyk. Izdateliskij Dom <<Muravej>>*.
- Kullmann, Rita, and D. Tserenpil. (1996) *Mongolian Grammar*. Jensco Ltd.
- Poppe, Nicholas. (1954) *Khalkha-Mongolische Grammatik*. Steiner Verlag GMBH.
- Poppe, Nicholas. (1970) *Mongolian Handbook*. Center For Applied Linguistics.
- Pustet, Regina. (2003) *Copulas: Universals in the Categorization of the Lexicon*. Oxford University Press.
- Sanders, Alan J. K. and J. Bat-Ireedüi. (1999) *Colloquial Mongolian*. Routledge.
- Sanzheyev, G. D. (1973) *The Modern Mongolian Language*. NAUKA Publishing House.
- Sharav, S. et al. (1978) *Unshix Bichig*. Ulaanbaatar.
- 塩谷茂樹 and プレジャブ. (2001) *初級モンゴル語*. 大学書林.
- Stassen, Leon. (1997) *Intransitive Predication*. Clarendon Press.
- Vietze, Hans-Peter. (1978) *Lehrbuch der Mongolischen Sprache*. VEB Verlag Enzyklopädie.
- Wetzer, Harrie. (1996) *The Typology of Adjectival Predication*. Mouton de Gruyter.